

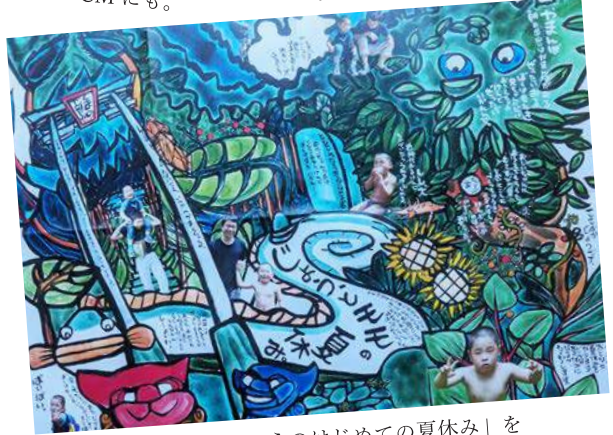
じょうづが、 もってきました。



「もってきたかねえ」村民から驚くような声がかけられている
笹岡じょうくん。村には中学校までしかありませんので、高校は
村外に出ていき、農業大学を卒業後、馬路村農協に就職し村
に戻ってきてくれました。小学生の頃は「こっくん坊や」とし
てテレビのCMやポスター、農協パンフレットにも出てもらっ
たじょうくん。誰からも愛されるような丸々とした姿のあの頃から
は想像ができないようなシュツとした青年となり村民は「あの、
じょうかね？」と村に戻ってきてくれた喜びとともに驚きを隠せ
られない様子です。農協では営農隊としてまずは畑のことを
いろいろと勉強中。これからの村を担う
一人となるよう、成長
していくことでしょう。



10年ほど前のぼん酢のポスター。
テレビCMにも。



小学校1年生では「じょうのはじめての夏休み」を
テーマにゆず製品パンフレットの主役に。

オーガニック ビレッジ宣言 その後。

馬路村がオーガ
ニックビレッジ宣
言をした今年の4月。その後、村はどのよ
うになっているかを探していると、農協の
Aコープの一角にオーガニックを見つけま
した。売れるかどうか、わからんけれど、
有機食材などを仕入れ、コーナーを設け
てみたそうです。
興味を持って買う
人もおり、オーガ
ニックという言葉
が村の中で知られ
るようになってき
ました。ほんの少
しずつですが、村
のその後の取組が
始まっています。



編集後記

村の夏のカゲの代名詞「大葉」。もち
ろん買うことはほぼなく、家の横に生
えるものを勝手にもっていけ、と言わ
れ遠慮なくもらっています。村にくる前までは、そこま
ですすんで食べることはなかった大葉ですが、村の夏の食卓に
は欠かせない薬味で、私自身大葉中心でおかずを考えたりも
するほどとなっています。ひとの身体は食べるものできて
いるという考えのもとだと、村外出身の私もそのときどきの
村の恵みをいただき、空気感だけではなく身体自体が村にな
じんでいっていることは間違いないでしょうかね。

令和6年夏
発行
馬路村農協

うまいむし新聞

あらゆる川魚の名人と呼ばれるイサオさん。
鮎の道具の手入れ、翌日のウナギの仕掛けの準備、
玄関先の背中からはたくさんの物語が広がっています。
さあ待ちに待った、馬路村の川が開きます。



馬路村への道
高知市から室戸方面に約51km 国道55号
線を太平洋沿いに進めると安田町へ入る。
そして左に大きい魚がみえてきたら左へ曲り、
安田川に沿ってさくわくわく上る。
県道12号線を通る事20km 約30分。
ゆやと馬路村に着きます。

ブログ
日々馬路村
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路温泉

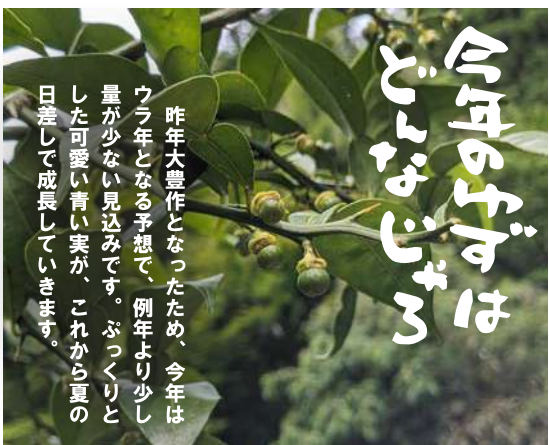
ツルツルのお湯です。
ゆっくりここにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026

村役場のアンヨくん。



ゆず生産行程管理記録帳			
No.	生産者	圃場所在	地名
1	馬路村 馬路	馬路	馬路
2	馬路村 馬路	馬路	馬路
3	馬路村 馬路	馬路	馬路
4	安芸郡馬路村 馬路	馬路	馬路
5	安芸郡馬路村 馬路	馬路	馬路
6	安芸郡馬路村 馬路	馬路	馬路
7	安芸郡馬路村 馬路	馬路	馬路

馬路村役場に勤める若手職員の安養寺くん。村のみんなからは親しみをこめて「アンヨ」と呼ばれています。そのアンヨくんがこの度ゆず畑を借りてゆずづくりに励みはじめたとの事。以前からゆずをつくってみたいと口にしており、つくり手がなく困っていた畑の新たな担い手として白羽の矢がたちました。馬路村役場では、ゆずに関しては職員も兼職が認められており、村ぐるみでのゆず栽培が進められています。とはいっても、収穫作業などの手伝いはしたことがあるものの、本格的な栽培管理は初めてとなるアンヨくん。村のベテラン農家からは「もう草を刈らないかんぞ」「どの肥料をやるかわかるか」など世話を焼く声をたくさんかけられております。この夏にアンヨくんの畑はきちんと草が刈られているか注目的。もっぱら草刈りに汗を流しています。



今年ゆずはどやうじやう
昨年大豊作となったため、今年はウラ年となる予想で、例年より少し量が少ない見込みです。ぶっくりとした可愛い青い実が、これから夏の日差しで成長していきます。

自然栽培のたんぼ

相名地区にある田んぼの一角では村のおんちゃんの協力のもと、小学生が無肥料・無農薬のいわゆる自然栽培の米づくりに挑戦しており、無事に秋の収穫を迎えると、自分たちの給食にこの米が使われたりもします。小学生自ら田んぼに線を引き、手植えでおこなっていくため、植え終えた後の見栄えはガタガタで、最後の方になると余った苗が束になって植えられている様も見られますが、「すべてご愛敬」と、おんちゃんは笑います。



いんちゃんのエコバッグ

農協のAコープによく買い物にくる、いんちゃん。買うものが多かったある日、エコバックとして一輪車をついて来店。お酒とゆずドリンクとお塩などを買込み、颯爽と帰っていききました。これも馬路流のエスディージャース、でしょうか。



ヤゴ

村の真ん中を流れる安田川では、この時期は鮎を釣るおんちゃんたちで盛り上がりますが、鮎だけではなく、いろんな生き物に出会う場となります。ある日、こどもが見つけたのはヤゴ。トンボの幼虫です。馬路に限らず、どこにでもいそうなヤゴですが、まじまじと見たのはいつぶりでしょうか。水辺のある環境は生物の多様性をつくる、と言われますが、村では田んぼや川などの水辺がたくさんあり、知らずのうちに多様性が育まれているのだと、久々のヤゴにふと感じさせられました。鮎にウナギにチチブにツガニにヤゴに、今年はどんな発見があるでしょうか。



こんちゃんは、ごん馬路村です。

5月3日、馬路の山からトラックを走らせ、やってきたのは高知龍馬空港。ゴールデンウィークのさなかで、高知県に来られる方々に喜んでもらえることを何か我々もしたい、ということに到着された方々にウェルカムドリンクとしてごっくん馬路村を一日限定ではありましたが手渡しさせていただきました。ごっくんを知ってくださいる方もたくさんおり、中には「馬路村がなんて」とエールをくださる方も。喜んでもらう目的でしたが、しっかり我々の励みとなりました。



馬路消防団 がんばる

「放水、はじめっ！」夜になると聞こえてくる馬路消防団のかけ声。放水までの速度や節度を競う、10年に一度の操法大会が6月末にあり、消防団の若手たちが夜な夜な練習に励んでおります。馬路村のような僻地では、近隣の消防署から消火活動にくるのに最低でも40分以上はかかるため、本職とは別で消防団活動をおこなう方々で初期消火活動にあたるのがとても重要になってきます。大会までの練習では、若手たちが情けない姿もたまに見えますが、コツコツと上達をしてきておるようです。通りすがの村の人も声をかけ、ときたま差し入れなどももらいながら、若手たちも技術や速度だけではなく、日々たくましくなっているようにも思えます。消防団も村づくりの一員、がんばれ馬路消防団。